北海道新幹線　新小樽（仮称）駅周辺整備構想（概要）

１．北海道新幹線の概要
２．新幹線を活かしたまちづくり
３．新駅周辺地域の土地利用構想
４．新幹線を活かすための機能整備
５．駅と駅周辺の整備
６．アクセス道路等の整備
７．今後の課題

図A「新小樽（仮称）駅から北後志主要観光地へのアクセス」
図B「新小樽（仮称）駅周辺土地利用ゾーニング」
図C「新小樽（仮称）駅周辺整備構想イメージ図」
図D「新小樽（仮称）駅から市内主要観光施設へのアクセス図」

平成１８年１２月

小　　樽　　市

１．北海道新幹線の概要

・区間：青森市～札幌市
・延長：約３６０km
・建設費：約1兆5，８００億円（平成１５年運輸省試算）
・建設主体：鉄道・運輸機構
【着工区間】
新青森～新函館約１５０km
平成１７年5月２２日着工（平成２７年度末完成予定）

札幌からの所要時間比較 ※新幹線は最高速度３６０km／hで試算		
行先	新幹線利用	航空機利用
函館	４５分	2時間１６分
青森	1時間１９分	2時間４１分
仙台	2時間３５分	3時間　6分
東京	3時間５７分	3時間２８分

○北海道新幹線建設に係る市町村負担見込

国：２／３、道：１／３(全国新幹線鉄道整備法施行令第８条）
道は負担の一部を市町村に負担させることができる（全国新幹線鉄道整備法第１３条）→市の負担は駅部と一体となった用途地域部分の建設費の１／１０の見込

○北海道新幹線建設（新函館～札幌）今後の予定

政府・与党による整備新幹線の新規着工区間見直しが平成１９年から行われる予定であり、ここでの新函館～札幌着工決定が期待されている。

２．新幹線を活かしたまちづくり

図A　参照

○東北地方からの観光客誘致拡大

小樽市を訪れる道外客の内、東北地方からの入り込み客が１割にも満たない。これは東北地方とを結ぶ現行の交通手段が不便であることに起因していると考えられ、新幹線が開通することによって東北地方との交通アクセスの利便性が著しく高まり、観光客の増加が期待される。

○小樽を起点とした北後志地域等の新たな観光圏構築

道外の観光客による道央観光は、これまで新千歳空港を起点として登別・洞爺湖方面から札幌へ向かう南側からの流れが主流。

新幹線の開通により小樽市を起点として、「フルーツカントリー」の余市町と仁木町、「積丹半島周辺沿岸地域」の古平町と積丹町などを取り込んだ、西側からの流れによる新たな観光圏の構築が可能となる。

○新駅周辺地域の新たなまちづくり

新幹線を起爆剤とした新駅周辺地域での新たなまちづくりを進めるため、地域資源（自然、地場産業など）等の活用、主要アクセス動線によるシンボル軸の形成、交通結節点機能の整備等を念頭に置いて有機的な土地利用のゾーニングを行い、この地域の計画的な面的整備を図る。

また、新駅近傍の未利用地において、新幹線の速達性等とその土地の有するポテンシャルを活かし、小樽を愛してくれる市外在住者のセカンドハウスや移住希望者を対象とした保養地型の高級住宅地の誘致を図る。

○小樽港との連携による国内外との交流促進

重要港湾である小樽港は、国内はもとより定期航路を持つ中国、ロシアなど環日本海圏や東アジア諸国と道央圏の拠点として重要な役割を担っている。

新駅と小樽港を連絡させることにより、海運による国内外との交流が促進される。

※北後志地域（小樽市・余市町・古平町・積丹町・仁木町・赤井川村）を新小樽（仮称）駅の駅勢圏範囲とします。

３．新駅周辺地域の土地利用構想　　図B 参照

○土地利用ゾーニング

【河川環境再生ゾーン】　自然再生など勝納川の河川環境の整備を進め、良好な水辺と魅力ある河川景観の形成を図る。

【沿道景観形成ゾーン】　新駅への主要アクセス道路（都市計画道路３・４・１４号若松線：一般道道天神南小樽停車場線）沿道は、駅利用者などを温かくもてなすよう、道路及び沿道建物の良好な景観形成を図る。

【交通結節点ゾーン】　様々な情報提供や案内など、駅施設関連の機能を持つ施設を駅舎内へ設置する。
また、広域観光や観光資源豊かな市内中心部へのアクセス起終点として駅前広場及び駐車場施設等の整備により、交通結節点機能の集積を図る。

【産業振興ゾーン】　新駅周辺の恵まれた自然環境を生かし、食品産業等の企業やＩＴ産業等の研究施設を誘致し、産業による地域振興を図る。

【生活文化交流ゾーン】　文化、交流、福祉、学習、情報などに関する機能を備えた、地域住民の生活・交流の拠点（公共プラザ等）を整備する。また、フリーマーケット、朝市などの継続的なイベントが開催可能な自由広場を整備し、新駅利用者と地域住民との交流の場を創出する。

【福祉医療ゾーン】　新駅周辺の恵まれた自然環境を生かしたケアハウス、デイサービスセンターなどの地域密着型介護サービス施設やリハビリテーション施設などの福祉・医療施設の立地誘導を図る。

【高層住宅ゾーン】　現在ある高層住宅と隣接する地区に、新駅及び周辺施設の建設に伴い転居が必要となる住民を受け入れるため、また、産業振興ゾーン等に進出する企業従事者等のために必要となる高層住宅の立地を図る。

【都市型住宅ゾーン】　新駅及び駅周辺施設の建設を機に、生活道路の再整備や街区公園の整備など、都市型住宅地としての住環境整備を図る。
また、住宅の建替え、更新を促進し、冬の積雪や寒さが日常生活の支障にならない、高齢者、障がい者等、誰もが安全、快適に住むことのできる都市型集合住宅の立地誘導を図る。
さらに、恵まれた自然環境や土地の価格、新幹線駅と近接している優位性などを活かし、道内外からの移住者の誘致を図る。

【保養地形成ゾーン】　小樽市を代表する新興住宅団地である「おたる望洋パークタウン」の隣接地には、新駅から札幌寄り約２．５ｋｍの石狩湾を望む高台に未利用地（第１種低層住居専用地域）がある。
新駅から当該地へは自家用車で１０分弱と近く、自然環境にも恵まれ、小樽の代表的な観光スポットや朝里川温泉などとも比較的近いことから「保養地形成ゾーン」と位置づけ、小樽を愛してくれる道内・道外者向けのセカンドハウスや、小樽に住んでみたいという都会からの移住者等を対象として、広い敷地をもつ保養地型の高級住宅地としての開発を目指す。

図B「新小樽（仮称）駅周辺土地利用ゾーニング」
勝納川（二級河川）
河川環境再生ゾーン
福祉医療ゾーン
産業振興ゾーン
都市型住宅ゾーン
沿道景観形成ゾーン
新小樽（仮称）駅
駐車場
駅前広場
生活文化交流ゾーン
交通結節点ゾーン
高層住宅ゾーン
都市計画道路3・4・14号若松線
至：札幌
北海道新幹線ルート
至：函館、東京
N
凡 例
河川環境再生ゾーン
沿道景観形成ゾーン
交通結接点ゾーン
産業振興ゾーン
生活文化交流ゾーン
福祉医療ゾーン
都市型住宅ゾーン
高層住宅ゾーン

４．新幹線を活かすための機能整備

○広域的な機能連携強化のための整備

・広域自動車交通への対応として、高速自動車道の各インターチェンジから新駅までの円滑な交通アクセスの確保を図る。
・交通利便性を確保するため、バス、タクシー等のターミナル機能を整備する。また、レンタカーの配備を図る。
・新駅の交通結節点としての機能向上を図るため、また、新駅利用者の待合い空間の確保や、新駅周辺の環境整備のため、駅前広場を整備する。
・乗降客に対して、観光等の地域情報を効果的に発信するため、新小樽（仮称）駅の駅勢圏地域と連携し、地域情報の収集機能とインフォメーション機能の充実を図る。
・地域文化にかかわる情報発信の一環として、小樽・後志地域に由来した物産展示・販売施設整備を図る。
・新駅利用者の待合や飲食及び滞在等の需要に対応する売店などサービス施設の整備を図る。

○駅勢圏地域と連携強化のための機能整備

・パークアンドライド用駐車場、キスアンドライド用乗降場の整備を図る。
・駅勢圏地域の公共交通サービス（バス、タクシーのターミナル機能を整備）の確保を図る。
・駅勢圏地域から新小樽（仮称）駅までの円滑なアクセスルートの整備を図る。

○市内の文化･観光拠点との連携機能整備

・小樽市内の主要な歴史的建造物や文化施設、観光施設など、既存の文化・観光拠点間の連携強化に向けて、バスを使った新小樽（仮称）駅を起点とする観光ネットワークの形成を図る。
・市内中心部の歩行者用案内標識の整備等により、バスと連動した歩行者系観光ネットワークの形成を図り、観光客が市内を散策しながら、小樽市の文化などに直接触れあえる環境整備を目指す。

５．駅と駅周辺の整備　　図C　参照

○駅前広場（約8，800㎡）

①自家用車
　駐車場：３０台
　乗降場：４バース（身障者用１、高齢者用１、一般用２）
②バス
　乗降場：４バース（路線バス用３、定期観光用１）
　待機場：３バース
③タクシー
　駐車場：２０台
　乗降場：３バース（乗車用２、降車用１）

○パークアンドライド駐車場

①普通車駐車場：約１３０台分
　新幹線を利用した商用や個人旅行など自家用車利用者の中長期停車のための施設として確保する。
②大型車駐車場：約１０台分
　新幹線を利用した修学旅行など団体旅行用大型バスの待機用駐車場として、パークアンドライド駐車場に隣接して確保する。

○駅舎・・・高齢者、身障者など誰もが快適に利用できるユニバーサルデザインを採用

・玄関ホール：駅利用者を温かく出迎える快適なホテルのロビーのような玄関ホール
　新幹線などの運行情報の提供、レンタカーコーナーの設置
・待合空間：冬も暖かく快適に過ごせる空港の出発ロビーのような空間土産物コーナー、スナックコーナーの設置
・トイレ：ユニバーサルトイレ、幼児用トイレ、ベビーベッドなどを配置
・乗降施設：エスカレーター、エレベーターを設置
・観光情報の提供：小樽市や駅勢圏にとどまらず、全道を対象とする観光情報の提供や、宿泊施設などに関する情報の照会や予約などの機能を備える。

　また、タウン情報（イベント、地域物産、医療機関ショッピング情報）、道路・交通情報、気象・災害情報等を発信、受信できる施設整備を進める。

図C「新小樽（仮称）駅周辺整備構想イメージ図」
福祉医療ゾーン
産業振興ゾーン
河川環境再生ゾーン
新小樽（仮称）駅
都市型住宅ゾーン
沿道景観形成ゾーン
駅前広場
パークアンドライド駐車場
生活文化交流ゾーン
交通結節点ゾーン
勝納川（二級河川）
都市計画道路３・４・１４号若松線
高層住宅ゾーン

６．アクセス道路等の整備　　図D　参照

○広域･駅勢圏地域からの自動車交通網の確保

新幹線の高速性を生かし、新小樽（仮称）駅が高速交通網の結節点として機能するためには、高速道路の各インターチェンジから新駅に至る円滑な道路アクセスルートの確保が重要となることから次のルートについて関係機関と協議を行い必要な対応を行う。

・札樽自動車道小樽ＩＣから新小樽（仮称）駅：主要道道小樽港線、一般道道天神南小樽停車場線、国道３９３号
・札樽自動車道朝里ＩＣから新小樽（仮称）駅：主要道道小樽定山渓線、一般道道小樽環状線、国道３９３号、一般道道天神南小樽停車場線
・北海道横断自動車道小樽西ＩＣから新小樽（仮称）駅：一般道道小樽環状線、一般道道天神南小樽停車場線

○小樽市内から新小樽（仮称）駅への自動車交通網の確保

新小樽（仮称）駅設置の効果を最大限に引き出すためには、市内から新駅までの円滑なアクセスルートの確保が重要であり、次のルートについて関係機関と協議を行い必要な対応を行う。

・新駅と小樽港とのアクセス性の向上を図るため、主要道道小樽港線・若松交差点とフェリーターミナルを短絡する道路の整備を検討する。
・国道５号・奥沢十字街の交差点改良などによる交通円滑化対策を検討する。

図D「新小樽（仮称）駅から市内主要観光施設へのアクセス図」
小樽市鰊御殿
おたる水族館
江差追分節名歌碑
小樽海上観光船
至オタモイ
小樽港クルーズ
至 積丹半島
新日本海フェリー
至 新潟・舞鶴
小樽運河
小樽運河（豊あかりの路）
オルゴール堂（メルヘン交差点）
小樽港マリーナ
自然景観を生かしたレクリエーションの場があるウォーターフロント交流拠点
生活、観光、親水の空間が複合しているウォーターフロント交流拠点
小樽港
小樽運河
小樽港第3号ふ頭
観光船のりば
フェリーターミナル
石原裕次郎記念館
小樽港マリーナ
JR小樽築港駅
札幌自動車道
小樽 I.C
ウイングベイ小樽（商業複合施設）
北一硝子
オルゴール堂
JR南小樽駅
JR小樽駅
JR北海道
歴史ある施設を活用したウォーターフロント交流拠点
小樽市役所
至 塩谷・余市方面
道道小樽環状線（956号）
至 小樽西 I.C・余市 I.C
天狗山スキー場
北海道横断自動車道
新小樽（仮称）駅
北海道新幹線
至 倶知安駅
風致公園整備予定地（奥沢水源地）
奥沢水源地
JR朝里駅
小樽 JCT
札幌自動車道
朝里 I.C
宿泊、スポーツ機能を基本とした山麓ライン交流拠点
北海道新幹線
至 札幌駅
望洋シャンツェ
望洋台サッカー・ラグビー場（3面）
朝里川温泉郷
朝里ダム
道道小樽定山渓線（1号）
朝里川温泉スキー場
朝里ダム（オタルナイ湖）
札幌ゴルフ倶楽部
北海道ワイン（小樽ワイン）
スポーツ交流拠点
毛無山展望台
自然環境を活用した山麓ライン交流拠点
至 定山渓温泉
至 キロロリゾート
0 500 1000 2000m

７．今後の課題

○北海道新幹線（新函館～札幌間）の実施計画が認可され、開業を想定した場合の新小樽（仮称）駅周辺整備課題

① 新駅周辺地区のまちづくりの展開

・まちづくりの具体化に向けた計画の策定

・都市計画決定等の必要な手続きの推進

② 駅前広場の整備

・駅前広場の具体的計画の策定

・駅前広場の都市計画決定

③ 交通ネットワークとアクセス整備

・幹線道路網等の具体化に向けた計画の策定

・都市計画決定等の必要な手続きの推進

④ 新駅併設施設や新駅周辺施設の誘導・整備

・駅周辺導入施設の規模、配置等を検討

・施設整備着手

⑤ 関係機関等との協議

※ この構想はあくまでも素案であり、実際の計画策定に当たっては、市民の皆さんや企業、関係機関などから広く御意見を伺いながら進めて参ります。